

外国語科

1 教科の目標

- (1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。「知識及び技能」
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。「思考力，判断力，表現力等」
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。「学びに向かう力，人間性等」

(1)は，外国語科における「何を理解しているか，何ができるか」という「知識及び技能」の習得に関わる目標として掲げたものである。本目標は，「外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解する」という「知識」の面と，その知識を「聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる」という「技能」の面とで構成されている。

(2)は，外国語科における「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力，判断力，表現力等」の育成に関わる目標として掲げたものである。コミュニケーションを行う際は，その「目的や場面，状況など」を意識する必要がある，その上で，「簡単な情報や考えなどを理解」したり，理解したことを活用して「表現したり伝え合ったりする」ことが重要になってくる。「思考力，判断力，表現力等」の育成のためには，外国語を実際に使用することが不可欠である。

(3)は，外国語科における「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか」という「学びに向かう力，人間性等」の涵養に関わる目標として掲げたものである。「文化に対する理解」やコミュニケーションの相手となる「聞き手，読み手，話し手，書き手」に対して「配慮」しながら，「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を身に付けることを目標としている。

2 新学習指導要領の要点

(1) 各学校段階の学びを接続

令和2年度から全面実施された小学校学習指導要領では，小学校中学年に新たに外国語活動を導入し，三つの資質・能力の下で，英語の目標として「聞くこと」，「話すこと[やり取り]」，「話すこと[表現]」の三つの領域を設定し，音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地を育成した上で，高学年において「読むこと」，「書くこと」を加えた教科として外国語を導入し，五つの領域の言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとしている。中学校段階では，こうした小学校での学びを踏まえ，五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することとしている。

(2) 話すこと[やり取り]の領域を設定

互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する。

(3) 取り扱う語数

「1,200語程度」の語から五つの領域別の目標を達成するための言語活動に必要な「1,600～1,800語程度」の語に改訂した。

(4) 文，文構造及び文法事項の増加

表現をより適切でより豊かにするなどの目的で，「感嘆文のうちで基本的なもの」や「現在完了進行形」，「仮定法」など数項目を追加した。

(5) 授業は英語で行うことを基本とする。

3 道徳との関連

外国語科における道徳教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、外国語科の目標と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切に指導を行う必要がある。外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながる。

4 外国語科における言語活動

小学校で学習した内容の定着の状況などの生徒の実態を踏まえながら、中学校の初年度の導入段階から必要な言語活動を通じた学習を繰り返し行い、小学校からの学びを中学校段階へ接続させる指導を行うことが求められている。

併せて、小学校の高学年で学んだ簡単な語句及び基本的な表現や、高学年における文字の認識、語順の違いなどへの気付き等の内容を、中学校の言語活動において繰り返し使用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを活用し、話したり書いたり表現できるような段階まで確実に定着させることが重要である。

また、言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語活動を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。このような言語活動を通して、生徒の「学びに向かう力、人間性等」を育成することが重要である。

英語学習を進めるに当たって

1 英語の学習指導でねらうもの

学習指導要領において、外国語科の目標を踏まえ、各学年の目標を次のように定める。

<p>(1) 第1学年</p> <p>① 聞くこと はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>② 読むこと 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。</p> <p>③ 話すこと[やり取り] 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>④ 話すこと[発表] 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p> <p>⑤ 書くこと 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p>
<p>(2) 第2学年</p> <p>① 聞くこと はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>② 読むこと 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>③ 話すこと[やり取り] 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>④ 話すこと[発表] 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようになる。</p> <p>⑤ 書くこと 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p>
<p>(3) 第3学年</p> <p>① 聞くこと はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。</p> <p>② 読むこと 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。</p> <p>③ 話すこと[やり取り] 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p> <p>④ 話すこと[発表] 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、そ</p>

の理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

⑤ 書くこと

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

2 小学校外国語活動、外国語科及び高等学校とのつながり

中学校の「書くこと」、「話すこと」という音声面の指導については、小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度など一定の素地が育成されることを踏まえ、言語の使用場面や言語の働きに配慮しなければならない。

高等学校においては、中学校における学習の基礎の上に、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成するための統合的な指導を行い、生徒のコミュニケーション能力を更に伸ばすことを目指している。

また、高等学校の指導要領には、「授業は英語で行うことを基本とする」と明記されており、中学校でも、その旨を十分に踏まえて授業を進めていくことを実践していかななくてはならない。

3 指導の留意事項

- (1) 言語材料については、学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導する。
- (2) 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して言語材料を継続して指導する。また、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導する。発音と綴りとを関連付けて指導する。
- (3) 文字指導に当たっては、生徒の学習負担に配慮しながら筆記体を指導することもできる。
- (4) 語、連語及び慣用表現については、運用度の高いものを用い、活用することを通して定着を図るようにする。
- (5) 継続的に辞書の使い方に慣れ、活用できるようにする。
- (6) 生徒の実態や教材の内容に応じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、ICT 機器などを活用したり、ALT などの協力を得たりする。また、ペアワーク、グループワークなどの学習形態を適宜工夫する。

4 知多地方教育研究案外国語科の構成

- (1) 単元の構成
 - ① Stage Activity は既習事項の総復習であり、Unit からは独立して単元を構成した。
 - ② Let's Read は、1 年生は 3 時間、2～3 年生は 4～5 時間で構成した。
 - ③ Let's Listen, Let's Write, Grammar for Communication, Learning ～ in English, 学び方コーナーについては、Unit に含めて単元を構成した。
 - ④ Let's Talk については研究授業や公開授業で最も取り扱われる項目の一つと予測し指導案を作成する機会が比較的多いと考えた。Unit から独立した単元として構成し、「単元の目標」を明示し、授業構想の一助となるようにした。
- (2) 指導案
各学年の指導案例に、学習活動及び、留意点について、さらに詳細に記述してある。2 年生の指導案については、詳案（TT における特設授業等用）として示してある。
- (3) 単元の目標
(1)は「知識及び技能」、(2)は「思考力、判断力、表現力」、(3)は「学びに向かう力、人間性等」を表す。
- (4) 評価
「留意事項」内の評価については、上記(1)を「知識・技能」、(2)を「思考・判断・表現」、(3)を「主体的に学習に取り組む態度」と表記し、その時間に評価する主なものを記載した。